（１）取組の経緯

【2016年度：第２回日仏農政ワーキンググループ】

○　平成28年12月、第２回日仏農政ワーキンググループが日本にて開催。
○　この中で、「若手農業者の新規参入の促進」について、相互の協力を推進していくことで合意。

【2017年度：日本の農業高校指導者によるフランスの農業高校訪問】

日本の農業高校教員５名が仏農業高校等を訪問し、仏農業教育の特徴や
持続的農業の実践等について学んだ

〈参加教員〉
東京都立農産高校・並川校長、北海道中標津農業高校・加瀬教員、
愛知県立渥美農業高校・眞壁教員、兵庫県立篠山東雲高校・菊川教員、佐賀県立佐賀農業高校・石橋教員

【2018年度：フランスの農業高校指導者による日本の農業高校訪問】

フランスの農業高校教員５名が日本の農業高校等を訪問し、
日本の農業教育の特徴や日本の農業現場での取組等について学んだ

〈参加教員〉
Mohammed AARABI（Saint Germain en Laye）、Franck COPIN（Chartres）、
Emmanuel COURTAUD（Rochefort Montagne ）、Magali DALOZ（Pflixbourg）、
Joris DEVILLE（Fontaines）

（２）日本の農業高校指導者によるフランスの農業高校等訪問について（2017）

日　程	場　所	概　要
１日目：５/29(月)	仏農業省（@パリ）	【フランスの農業政策に係る意見交換】 仏農業省の農業政策、農業教育の現状や、アグロエコロジーの推進に関するプレゼン・意見交換等
２日目：５/30(火)	パドカレ県農業高校（@アラス） 	【パドカレ県農業高校視察①】 フランスの農業教育・パドカレ県農業高校の特徴説明、フードコネクション見学、じゃがいも苗の生産・選別現場見学等
３日目：５/31(水)		【パドカレ県農業高校視察②】 パドカレ県農業高校で取り組むプロジェクト説明、養蜂研修施設見学、テクノイヴサロン見学、高校食堂における食品ロス削減の取組説明、収穫体験販売に取り組む観光農園見学等
４日目：６/１(木)	パドカレ県農業高校（@ラディンガム）	【パドカレ県農業高校視察③】 パドカレ県農業高校ラディンガム校舎の紹介、校舎内農場見学、就農促進及び事業継承に関する説明等
５日目：６/２(金)	サンジェルマン・アン・レー農業高校 	【サンジェルマン・アン・レー農業高校視察】【総括】 サン・ジェルマン・アン・レー農業高校訪問、校舎内農場・直販所見学、今後の交流活動に向けた総括

（３）フランス農業高校指導者による日本の農業高校等訪問について（2018）①

日　程	主な取組	概　要
１日目： 10/29(月)	日本農業経営大学校訪問	・農業経営者の育成を目的とした教育機関 ・経営者の育成に向けたカリキュラム等について意見交換
２日目： 10/30(火)	兵庫県立農業高校訪問 〈昨年の招聘教員：菊川先生が在席〉	・兵庫県内最大７学科を有する農業高校 ・生徒が取り組むプロジェクトの発表、生徒との意見交換等
３日目： 10/31(水)	・兵庫県内農業関係施設訪問 ・兵庫県荒木副知事への表敬訪問	・施設野菜生産農業者（県農卒業生） ・兵庫ネクストファーム（次世代施設園芸） ・弓削牧場（酪農、チーズ加工、レストラン、バイオガス） ・道の駅神戸フルーツフラワーパーク（直売所）
４日目： 11/１(木)	・濱村農林水産大臣政務官への表敬訪問 ・農林水産省・文部科学省意見交換	・農業教育・新規就農、環境保全型農業、再生可能エネルギーに係る施策説明、 ・今後の連携に向けた意見交換
５日目： 11/２(金)	・大田市場見学 ・都立農産高校訪問 〈昨年の招聘教員：並川校長が在席〉	・園芸や食品加工を専門とする農業高校 ・生徒が取り組むプロジェクトの発表、生徒との意見交換等
６日目： 11/3（土）	・新規就農に関する意見交換 ・鑑賞用錦鯉生産者・日本庭園等訪問	・フランス農業高校指導者の所属する５校の紹介や新規就農促進に向けたアイデアの交換

（３）フランス農業高校指導者による日本の農業高校等訪問について②

兵庫県立農業高校及び東京都立農産高校への訪問

○　両校においては、生徒の取り組むプロジェクト発表の見学や、代表生徒との意見交換を実施。

○　代表生徒からは、水稲の有機栽培や、花き生産・販売に携わりたいので、東京農業大学や県農業大学校に進学したいとの希望が語られた。

【兵庫県立農業高校】

授業見学・生徒との交流

プロジェクト発表

生徒との意見交換

仏農業高校指導者と
太古校長先生

【東京都立農産高校】

授業見学・生徒との交流

高糖度トマト生産について
生徒から説明

意見交換・プロジェクト発表

仏農業高校指導者と
生徒達

（３）フランス農業高校指導者による日本の農業高校等訪問について③

兵庫県内農業関係施設への訪問、兵庫県荒木副知事との面会

○　兵庫県では、兵庫県立農業高校卒業生である施設園芸経営者や、チーズ加工・レストラン経営や糞尿や食品残渣を活用した小規模バイオガスプラントによる発電に取り組む酪農経営者を訪問。

○　荒木副知事からは、県としてもパリに事務所を構え、フランスへの日本酒等の輸出促進に取り組んでいるところであり、農業教育連携についても前向きに取り組んでいきたいとの発言。

【酪農経営者・弓削ファーム訪問】

【乳牛飼育】

【チーズ加工・レストラン】

【プラント液を使った有機野菜】

【バイオガスプラント】

【県農卒業生・松井さん訪問】

【荒木副知事との面会】

（参考）日本国内の報道状況

○　兵庫県立農業高校・都立農産高校訪問については、日本の新聞にも取り上げられた。

○　フランスとの農業教育連携を含めて農業高校の活動を広くPRする機会にもなった。

日本の農業教育に感心

仏高校校長ら　県農を視察

生徒に質問したり、答えたりするフランスの農業高校校長ら
＝加古川市平岡町新在家の県立農業高で

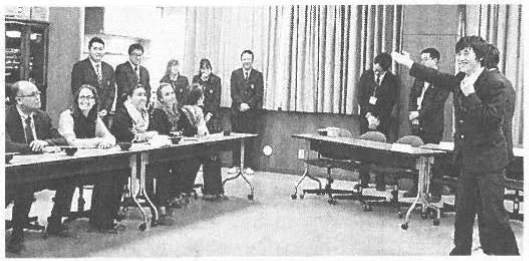
フランスの農業高校の校長や教員ら8人が30日、県立農業高（加古川市平岡町新在家）を訪問し、県農の農業教育を視察した。日本とフランスは昨年から若手農業者の育成について農業高校の指導者を相互訪問することにしており、今年はフランスが日本を訪れる番だった。

この日、県農を訪れた農業高校関係者はサンジェルマン・アン・レ農業高のモハメド・アラビ校長や教員の5人。仏農業省職員ら3人の同伴者もいた。野菜や果物のほ場、畜舎などを訪れた。ハトやスズメから農産物を守るため、飼育している小型のタカの放鳥訓練を興味深く見守った。

校舎正門の庭の花を植え替えている生徒に「将来はどんな仕事に就きたいですか」「フランスで学びたい人はいますか」などと声をかけていた。生徒から「フランスにしかない花はありますか」といった質問も出た。

園芸が専門のアラビ校長は「植え替えを効率よく行うには腰痛防止のために姿勢を正す必要がある。ここの生徒はその基本ができている」。また、ヤシの一種「フェニックス」と松が近くに植えられている正門の庭を見やって「いろんな植物を混ぜて見せる、という庭の考え方に日本的なものを感じる」と話した。【田畑知之】

↑平成30年10月31日（水）毎日新聞



生徒と意見交換するフランス農業高校の関係者ら（2日、東京都葛飾区で）

農高「レベル高い」

仏教諭らが生徒と交流

政府が日本に招いたフランスの農業高校の指導者らは2日、東京都立農産高校（葛飾区）を視察し、学生らと意見交換した。同国から農業高校関係者が来日し、交流するのは初。両国の農業高校の取り組みを共有した。政府は今後も、農業高校などを通じて同国との交流を深めていく方針だ。

フランス各地の農業高校から校長や教員ら5人が訪問。一行は、同校の実習授業やキャベツやブロッコリーなど15種類以上の野菜を栽培する圃場（ほじょう）を見学。生徒らが地元の伝統食材として調査などを進める「江戸みそ」の研究発表を聞き、江戸みそを使ったみそ汁の試食もした。

生徒らは、ガーデニングコンテストへの参加や明治時代に衰退した「三河島菜」の復活、太陽光発電による自動水やり装置の実験などをしていると報告した。

教諭らは「日本の農業高校は調査研究のレベルが高い」などと話した。フォンテーヌ農業高校のジョリス・ドヴィル教諭は「今後は学生同士の交流もしていきたい」と話した。

平成30年11月３日（土）日本農業新聞→